

平成 27 年度文化交流センター運営協議会定例会  
会 議 結 果

日時 平成 28 年 3 月 29 日 (火)

14:00～15:00

場所 文化交流センター講習室

出席委員 高橋会長、今田副会長、相馬委員、橋場委員、林委員、深瀬委員  
山内一徳委員、山内秀委員、横濱委員、脇田委員 計 10 名

事務局 教育部 松浦部長  
生涯学習課 鍛冶課長、野水主幹、下館囑託員

指定管理者 文化交流センター 石丸館長、三石副館長

- 
- 1 開 会 (進行) 野水主幹
- 2 教育部長挨拶 松浦部長
- 3 事務局担当職員挨拶 鍛冶課長  
指定管理者自己紹介 石丸館長、三石副館長
- 4 議 事 (議事進行) 高橋会長
- (1) 平成 27 年度 文化交流センター事業報告及び利用状況報告  
～資料に基づき石丸館長から報告
- (2) 平成 28 年度 文化交流センター事業計画  
～資料に基づき石丸館長から説明
- (3) その他
- 7 閉 会 (進行) 野水主幹
- 

【 議 事 】

議長： 初めに（１）平成 27 年度文化交流センター事業報告及び利用状況報告について、事務局からご説明をお願いします。

館長：平成 27 年度文化交流センター事業報告及び利用状況を資料に基づき説明

(内容概略) 学習活動の推進について、市民カレッジでは全期 13 講座、後期 10 講座で前年度並みの実施をした。新規講座としては前期のボディトーク、ソープカービングレッスン、後期ではスマホ&タブレットの普及に合わせた使い方の講座を開設した。

子ども体験教室は前年度並みの実施をした。後期教室の作品をひなまつり展での展示やお茶の振舞いなどは子ども達の情操を養うのみならず、親御さんやおじいちゃん、おばあちゃんも来場いただくなど好評をえており、アンケートでも毎年楽しみにしているというご意見をいただいた。

臨時講座では孔版年賀状講習会と子どものダンス講座としてポップホップを行い、最終日にはステージで披露している。最近孔版が殆ど使われておらず、受講人数も少ないが楽しみにしている方もいるので続けていきたい講座である。

自主事業の推進は基礎を固める入門編として、今年度も需要の高い健康麻雀やフォークダンス講座を開催した。健康麻雀は認知症予防にも良いとされており、スマホ・タブレットは市民カレッジ講座で半分以上が定員オーバーになったところを自主事業として実施した。2年ぶりに行った街かど先生企画ではパソコンのワードを使って絵を描く講座が好評だった。

今年度も子どもから高齢者まで幅広い年代を対象とした講座を実施している。

ほかに地域の団体やサークルの方々の協力をいただいてセミナーやクリスマスパーティーを開催した。クリスマスパーティーのフォークダンスは昨年を上回る120名の参加があり、交流の場として来年も継続していきたい。

独自事業は前年並みの文化祭、クリスマス展、ひなまつり展を実施した。講座の受講状況（別紙1）を提示し、講座のちらし（別紙2～9）と実施状況の写真（別紙14）も添付している。

高齢者学習の推進は長生大学（別紙10）の自主的活動の支援、合同大学祭、高齢者主張発表会（別紙11）を実施した。

芸術・文化事業の推進はとまこまい市民カレッジ・独自事業・自主事業の各講座を実施し、文化祭でのサークル講師の作品展示を行い芸術・文化の振興に取り組み、市民との協働事業として作品展示とコンサートで芸術文化を身近に感じていただく機会の充実として、今年初めての試みとしてクリスマス会にロビーで東高校の生徒のヒップホップダンスやサークルのフラダンスを実施し、ロビーが活気づいていた。今後は若い人達が集える企画も推進していきたい。

市民自主学习活動の推進は視聴覚教材の貸出やサークルまつり（別紙12）をサークル連盟と共催で実施した。今後も連盟との話し合いをしながら現状と課題の共有を図り、活動方針も共通認識を持っていく。

施設の適切な管理運営は多様な学びの場の提供、ひとづくりへの取り組みに努め、アンケート調査を踏まえてニーズに対する対応やサービスの向上に努めてきた。利用者アンケート調査結果（別紙13）で示したとおり、昨年同様の高い評価をいただき、施設全般の満足度は88.5%あったが、駐車場不足については厳しい意見があった。引き続き公共交通機関の利用呼びかけと近隣施設との協議を続けて、限りあるスペースの活用を図っていく。

施設利用状況（使用回数・稼働率・延べ利用人数）について提示した。各項目で前年度を下回っている要因としては、サークル数や一団体当たりの人数の減少及び無料法律相談等を含む月の使用回数の減少が影響したと考えられる。プレイルーム及び交流ひろばの無料スペースは若干の増加になっている。今後は稼働率の向上に向けてのPRや空室を利用した事業の企画を考えている。

議長： ただいまの館長さんからの報告に対しまして、ご質問・ご意見をお受けしたいと思いません。特にございませぬか。特にないようですので、平成27年度事業報告及び利用状況報告につきましてはご承認いただけたものとしてよろしいでしょうか。

委員： 異議なし

議長： 次に議事の（２）平成 28 年度文化交流センター事業計画について、事務局からご説明をお願いします。

館長：平成 28 年度文化交流センター事業計画を資料に基づき説明

（内容概略） 学習活動の推進では市民カレッジ、子ども体験教室、臨時講座は今年度並みの内容で予定、自主事業は市民の要望や地域課題に応じた学習機会の提供や内容の充実を図り、施設の利用促進に努める。

独自事業ではサークル連盟だけでなく幅広く地域のアーティストや研修の機会を求めている方の協力を得ながら事業の実施を進めていく。

高齢者学習の推進は高齢者の社会参加や生涯学習機会の充実に努める。長生大学の運営については学生の自主性を尊重し、より活性化を図る。新入学生募集については 6 月から予定している豊川コミセンの改修工事の影響があるのか、やや伸び悩んでいる。今月末で募集終了になるが、現在 40 名で昨年の約半分の申し込み状況であり、入学式までさらに PR の努力を行っていく。

芸術文化事業の推進は各種講座、自主事業を市民や地域との協働を通して実施し、芸術文化に触れてもらうとともに、人と人のつながりから新たな芸術文化事業が生まれるよう支援していく。

市民自主学習活動の推進はサークル連盟と連携し、第 40 回を迎えるアイビーサークルまつりにおいてより一層の協力体制で臨み、各サークル活動の推進を図り、利用される団体とのコミュニケーションをとり各団体の交流や社会参加の促進に努める。

施設の適正な管理運営については貸室等の多様化に対応する職員のスキルアップのための研修等を引き続き強化する。よりキメ細やかなサービスに取り組み、地域の課題に向かえるような事業を企画し、公正で安全・安心な市民の目線に合った施設づくりに取り組んでいく。

議長： ただいま説明ありました平成 28 年度文化交流センター事業計画に対しまして、ご質問・ご意見等をお受けしたいと思います。

委員： 長生大学の運営についてですが、大学にはクラブ活動として従来 7 つのクラブがありましたが、パソコンクラブが今年度から機材がないということで中止になっております。以前、直営時代には市の古くなった機材を有効活用して活動を継続していたようです。今は民間委託になり、難しさはあると思うが、学生の皆さんは楽しみにしているので、何らかの方法で継続できるよう取り計らってもらえればありがたいと思います。

議長： 長生大学のパソコンについて、これが使えなくなりクラブ活動ができないので、ご配慮いただけないかということですが、事務局いかがですか。

部長： 具体的にどういう機材が足りないということは把握されておりますか。

館長： 長生大学の代表者会議を年数回行っています。現在使用しているのは一体型のもので XP ですが、最近では家庭で持たれているのがセブンとかテンで、OS が全く違うと画面も全く違うということで、代表者会議でも話しましたが、パソコン 20 台を全部替えるとなると多額になるため、現状では入れ替えることは非常に難しいということです。

各自が自前のノートパソコンを持参してやるという話も出ましたが、最終的に代表者会議の中では必要ないとの結論になり、とりあえず中止にしようという流れになっております。

部長： 市全体でも少し前に XP からセブンに切り替えの時代があつて、セブンをテンということになるでしょうが、市の中でも再任用などもあり、古くなったからといって直ぐに下ろせるような状況にはないと思いますが、機材の提供ができないかを検討させていただきたいと思います。

議長： 機材提供について検討していただけるということでよろしいでしょうか。ほかに事業計画についてご質問等ありますか。

委員： 27 年度と 28 年度の事業計画であまり変わっていないと思われるので、時代のニーズとか多様化しているという話が館長からあつたが、何か新しいものとか講座の種類とか何点か特徴的なことがあれば教えていただきたいと思います。

議長： 27 年度と 28 年度で特徴的な違いがあれば教えてほしいということですが、事務局お願いします。

館長： 新たにボランティアの養成講座を前期に回数 4 回で行う予定をしております。ボランティアというのがなかなか地域に根付かないということや活動範囲が狭くなって人数も減ってきているということもありまして、これを養成していこうと考えております。

その他リンパ体操の講座を 2 本ほど企画予定しています。

また、新たなコンサートであったり、南高校の演劇部が昨年から定期的に公演をしております。吹奏楽などと演劇のコラボレーションで何かができないか話を進めています。

ウクレレの講座も前回自主的に実施しましたが、結構要望がありまして新たな楽器の講座も進めていきたいと考えております。

アイビー・プラザは子どもの利用が少ないので、これを増やしていきたいということと、交流的な部分での発表会を単独ではなく他のところと一緒にできるようなことを考えております。

議長： ほかに事業計画について特になければ、平成 28 年度事業計画につきましてはご承認いただけたものとしてよろしいでしょうか。

委員： 異議なし

議長： 次に議事の（３）その他に移ります。まず、事務局からありますか。

事務局： 会議出席報酬にかかる事務連絡（内容省略）

議長： 今日は委員全員がお集まりいただいております、折角の機会ですので文化交流センターの運営につきましてご発言いただければ、この後の運営に活かしていただけるのではないかと思います。忌憚のないご意見等をお願いしたいと思います。

委員： 駐車場のことですが、以前はホールを利用する時に駐車場係を名前も出した上で、必ず付けてくださいとしていましたが、今もそうでしょうか。

館長： 今でもそうです。

委員： それはやはり必要でしょうか。

館長： ホールのほか講習室の利用もそうですが、50名以上の方が来るとかなり混雑します。それで事故等の防止も含めて付けていただいております。特に高齢者福祉センター（教育福祉センター）が日・祝日は朝から使えたのですが、今年度から指定管理になって日・祝日も運営することになったために朝から止められなくなっております。

また、近隣から渋滞しているとか、路上駐車をしているというのがあり、駐車場係がついているとそういうことがなくなっております。

長生大学の入学式・卒業式は近隣のお寺の駐車場を借りて停めております。

引き続き50名以上の利用に関しては駐車場係を付けていただいた方が、事故等も含めて安全にご利用いただけるのではないかと考えております。

委員： ほかの施設で市民会館や総合体育館はたくさんありますが、文化会館などは少なめと思いますが、お客さんの入る数と駐車場の数からすると、ここは少ないですか。

館長： 65台分しかないので、コンサートも夜間に利用される方が結構いて、その場合は高齢者福祉センター（教育福祉センター）が午後5時半で終わりなのでそこに停めていただいて良いのですが、誰かが付いていないとどこに停めて良いか分からなかったり、一昨年は有料で使える中央ボウルで、2階のフロントに行かずに無断で何十台も停めてクレームがあったことなどもありまして、その誘導等も含めてやっていきたいと思っております。

委員： 参考までですが、会場選びをする時にどうしても駐車場係を出さなければならないと、非常に申し訳ないとか、冬は寒いですから、それを考えると他を探そうかという声が聞こえて来ることがあります。

館長： 事前には高齢者福祉センター（教育福祉センター）に止められる台数を確認して、駐車場係に情報を提供するなどの対応をしているところです。

議長： 50名以上の利用の場合は駐車場係を置かなくてはいけないというルールですね。

委員： 今の駐車場の件ですが、指定管理になったから使えないという議論はどこから出てきたのか。我々が先に始まった時にはこの施設は駐車場が狭いから共通して使いましょうということで、それで良いということになっていました。

市からお墨付きが出ており、それが指定管理者になって変わるということにはならないと思いますが、いつの時点で変わったのかということです。

部長： 停めてはならないということではなく、土日も運営しているので止められない状況だということだと思います。

館長： 全部で100数台止められるが、最低50～60台は来ているということで、平日の検診がある時はびっしりで、こちらの車は止められない状態が曜日によってはあるということなので、向こうと連絡は取り合っています。

委員： 今の話のようにコンサートに使い難くなってきたということは事実かも知れないと思います。

副館長： 先ほど館長から人数の基準として50名以上という話をしましたが、学生や高齢者の場合に必ずしも皆さんが車で来られない場合もございます。大型バスなどで来る場合などは係の必要はありません。車で50台以上になる場合はお願いをしているという状況です。

利用者に完全に周知が行き届く場合で、何かあった時にご協力いただける場合は氏名の提出はしてもらわずに当日の対応のみしていただくこともあります。

議長： 駐車場係は参加人数ではなく、車が50台以上になるということですね。

基本的には両方の施設で使えるということで、福祉センターの利用者があった時はその分少なくなるということですね。

個人でアイビーを使う場合に福祉センターに停めるのは良いですね。

副館長： 夜間帯の午後5時30分以降は福祉センターが終わっていますので専用で使えます。

そのほかは空いていれば使って構いません。

委員： この施設を利用するに当たっての障害となるものが出てきたなという気がします。

だから使わないという議論と逆転していると思うのであって、そうなる悪循環になっている。それがあつたために違うところを探そうかということになる。管理運営としてそれが最善の方法なのかということを経営協議会として指摘することではないかと思います。

確かに駐車場は少ないが、ここしかありませんから、ここでコンサートやる時に絶対に合いません。そうするとどうするかということで、当時は福祉センターを総合的に利用

しましようということにしました。

それがだんだん縮ってきているということで、ここにとっては良くないことが起きている。だから使いませんという言葉が出てくると、我々としてそれはおかしいのではないかととなり、それでは使い易くすべきではないかということを使うべきではないかと思えます。

議長： 私もここでコンサートに使っており、知合いをお誘いしても、車が停められなくて聴けなかったという方が回りにもいました。

ご指摘があったように、車が停められないから交流センターを使わないということになれば、運営にも係わる大きな問題になるのではないかと思えます。そういう指摘は確かにそうであると思えます。これは何とか解決しなければならない大きなテーマの一つではないかと思えます。

今回運営協議会で意見が出たということで、是非受け止めていただきたいと思えます。

その他にありますか。他になれば、これで議事を終了させていただきたいと思えますがいかがでしょうか。

委員： 異議なし。

議長： 以上をもちまして議事全てを終了いたしました。皆様方のご協力で無事に終了できました、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

事務局： 高橋会長、委員の皆さま、貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。何とか検討をしてみたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

以上をもちまして、平成 27 年度苫小牧市文化交流センター運営協議会定例会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。